

プロレスで“かんら”に活力を 妻木さん

「かんらプロレスフェスタ」が9月29日、甘楽中学校体育館で東京都内を中心に活動する「プロレスリングBASARA(バサラ)」の協力のもと開催されました。

8月に3年間の町地域おこし協力隊としての活動を終えたばかりのFUMAこと妻木洋夫さん(轟)がリングに上がると会場全体が一体となって応援し、その熱気は最高潮に達しました。

力強い投げ技や華麗な空中技の数々に観客たちはそのたびに歓声を上げるなど、大いに盛り上がりました。



死闘を繰り広げるFUMA選手

手づくりうちわを手に声援を届けたFUMA選手のご近所の皆さん

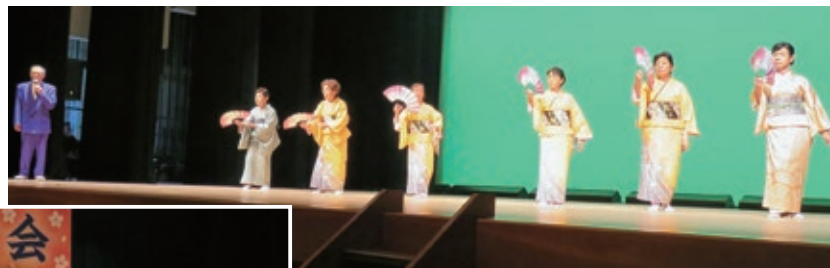


地域おこし協力隊の任期終了後も町に残ることを決断した妻木さんは、現在、農業や養蜂、有害鳥獣駆除などに取り組んでいます。プロレスを通じて地域貢献し続けたいという強い思いがある妻木さんは「選手との一体感や熱気を生み出すプロレスを通じて、多くの人と感動を共有し一緒にこの場を盛り上げることができてうれしいです。このことが町全体の活性化にもつながっていくことを願っています」と熱く語りました。

活動の成果を披露 芸能発表会

甘楽町文化協会(中野薫明会長)主催の芸能発表会が10月6日、町文化会館で開催されました。

▼マヒピアフラグループ キーナナ



▲きらの会

23団体が、歌謡や舞踊、各種ダンス、楽器演奏など多彩な演目を披露し、日頃の活動の成果を発表しました。演目が終わるたびに観客からは温かい拍手が送られ、地域文化の振興とその魅力を再確認する場となりました。

増田さんの100歳を慶祝

増田千代乃さん(大正13年10月1日生まれ・秋畑)が100歳の誕生日を迎えられ、10月1日に森平町長が町内の介護施設を訪問し、慶祝状と祝金を手渡しました。

増田さんは吉井町(現高崎市)長根の生まれで、秋畑に嫁いだ後は夫婦で自営業を営み、2人のお子さんに恵まれました。

長寿の秘訣は「好き嫌いなく食べること」。以前は裁縫が得意で服作りをよくしていたという増田さんは、施設内でも手先の器用さを生かし塗り絵をしたり、レクリエーションに参加し穏やかに暮らしています。訪問当日は施設職員が準備した装飾や森平町長のお祝いの言葉を受け、涙ぐむ姿がありました。



伝統工芸の継承 木工藝学林 清雅舎展

重要無形文化財「木工芸」保持者(人間国宝)で名誉町民の須田賢司さん(小幡)と、須田さんが工芸家の素養育成を図る目的で主宰する「木工藝学林 清雅舎」の8人の若手作家による作品展が、町制施行65周年記念事業として9月21日から10月14日まで、長岡今朝吉記念ギャラリーで開催されました。

会場には技を極めた多彩な作品71点のほか、素材となる木材や制作道具などが展示されました。

初日には、須田さんらが自らの作品について来場者に直接解説し、製作の意図や過程、使用木材の特性などを詳しく語り、来場者は熱心に聞き入りながら作品を鑑賞しました。



作品について説明をする須田さん

開園25周年 ふるさと農園収穫感謝祭

甘楽ふるさと農園(上野)の収穫感謝祭が10月20日に開かれ、同農園管理組合(吉田恭一組合長)主催の「農園づくりコンテスト」の表彰式やフルート演奏会が行われました。

表彰は、栽培管理状況の良さや工夫を凝らした農園を作った19人が各賞を受賞しました。

主な受賞者 (敬称略)

最優秀賞	加来昭明(東京都北区)
町長賞	高井幸夫(藤岡市)
農業委員会長賞	井上美代子(秋畑)



スポーツ振興に貢献 中村さん

群馬県内における生涯スポーツ功労者および優良団体の表彰式が9月6日、群馬県庁昭和庁舎で開かれ、中村比呂美さん(小川)が栄えある賞を受賞しました。

中村さんは長年にわたり町スポーツ推進委員として、地域スポーツの普及・振興、地域住民の健康と体力づくりに貢献されました。現在、地元バレーボールクラブで選手として活動する傍ら、県民大会にも多年出場するなど活躍された陸上競技では、後進の指導にあたっています。

中村さんは「長い間、大好きなスポーツに役員として携わせていただき、その結果このような名誉ある賞をいただけたことは大変光栄です」と受賞の喜びを語られました。



りんご狩りを体験 にこにこキッズ

子育て支援センター「にこにこキッズかんら」は、主に乳幼児を持つ親子が気軽に集い交流できる場所として多くの皆さんが利用しており、さまざまなイベントを行っています。

10月7日には、事前申し込みのあった親子20組が井田りんご園(小幡)へ『アップルピクニック』と題したりんご狩りに出掛けました。



真っ赤なりんごが実る木々が広がる光景に子どもたちは大喜び。同園の井田豊明さんからおいしいりんごの見分け方と収穫の仕方を教わり、子どもたちは「大きいのを見つけた!」と声を上げながら、うれしそうに収穫しました。

中南米からの研修生が来町

JICA(国際協力機構)の研修員受入事業「地域振興にむけたブランディング(中南米向け)」コースを受講する15人の研修生が来町し9月24日、役場を訪れ森平町長と懇談しました。

研修は、地域・農村の活性化を学ぶことを目的としており、JICAの委託を受けた自然塾寺子屋(小幡)が運営しています。研修員は主に中南米諸国の地域開発に関わる省庁やNGOの職員で、森平町長が町の特産品を開発した経緯を話すと熱心に質問していました。



伝統を次世代へとつなぐ 小幡八幡宮秋季例大祭

小幡八幡宮の秋季例大祭が10月12・13日に15年ぶりに行われました。この例大祭は、5年に1度行われる伝統的な行事ですが、過去2回は天候不良などで中止していました。

12日、横町・上町・仲町・下町・新堀の各組の屋台がお囃子^{はやし}の音とともに第1区内を練り歩く「城下巡行」を行った後、参道に集結し、大下組による神楽獅子舞が奉納されました。



区長の柴田 洋さんは「区の総力を挙げて15年ぶりの例大祭が盛大に開催できました。地域の伝統行事を絶やすことなく次世代を担う子どもたちへとつなげていきたい」とその思いを語られました。

剣を交え交流を深める 合同稽古会

甘楽町と東京都北区の剣道交流稽古会が9月29日、旧甘楽第二中学校体育館で昨年に引き続き行われ、東京都北区剣道連盟(九万田 勉会長)から21人、群馬県剣道連盟甘楽富岡支部(内藤郁芳支部長・白倉)からは13人が参加しました。

会場内には剣道愛好家たちの気合いが響きわたり、鋭いまなざしで剣を交える姿がありました。



互いの技を磨き合い、親睦を深めた剣士たち

北区とサッカー交流

友好都市東京都北区との少年サッカー交流が9月21日、甘楽ふれあいの丘陸上競技場で行われました。

甘楽町からは町内の小学生を中心とした少年サッカーチーム JOINUS Jr FC(大河原和男代表・森平悠生キャプテン)と吉井ジュニアパルス、FC碓東ジュニアの3チーム、北区からは北区トレセンA・B・Cの3チームが参加し対戦しました。

約80人の小学生が熱戦を繰り広げ、スポーツを通じて友情やチームワークの大切さを学ぶ機会になりました。



ペナントや記念品を交換し交流する選手たち